



富山市の(有)共栄産業と大阪市の(株)計商行が提携して市内に企業進出することが決定し、11月30日、市と工場立地協定を結びました。

同業者は惣菜製造業で、ホテルや旅館などの方針に合った「1企業オンリーワン」の食材加工が可能な業者です。

常に高い生産性と技術で、鳥羽から全国に向けて安全・安心な食材を普及することが期待されます。

鳥羽市で初めての工場立地協定



12月15日に桃取町自主防災会のみなさんが地震・津波を想定した高台避難訓練を行いました。

当日は、町民の半数以上が参加して、津波を知らせるサイレンの音とともに声を掛け合いながら高台に避難したり、青竹と毛布を使った応急担架の作り方を学びました。

同町自主防災会では、避難訓練のほかにも町内の高台18か所を一時避難所に指定し、地図を作成したり、そこへ至る道を防災用道路として町民総出で整備するなどさまざまな取り組みを行っており、その活動が評価されて平成19年度「みえの防災奨励賞」を受賞しました。

地域ぐるみで防災対策



1月19日、鳥羽小学校昭和52年度卒業生らが、同小学校に集まり30周年記念同窓会を行いました。

これは、同小学校の移転に伴い、現校舎が廃校になってしまう前に、懐かしい校舎にもう一度みんなで行ってみようということで企画されました。

参加した藤井啓誌さんは「運動場がすごく小さく感じました。卒業してからほとんど来る機会がなかったので、久しぶりに懐かしい友人や校舎に会えて良かったです」と話してくれました。

懐かしい校舎で、もう一度



鳥羽市温泉振興会は、1月9日、鳥羽商工会議所かもめホールで、昨年4月から導入された入湯税の活用方法などについて話し合う「新春観光座談会」を開催し、市内外から観光関係者など約180人が参加しました。

この日は、旅行作家の竹村節子さんによる基調講演や、竹村さん、湯原温泉女将会会長の上塩浩子さん、県観光局長の大森久さん、木田市長らによるパネルディスカッションなどが行われました。

参加したかたは「今後、入湯税を活用した観光振興に、大いに期待しています」と話してくれました。

入湯税の活用を期待